

中学校第2学年 道徳 主題名「個性を伸ばす」

資料名「リスペクト アザース」(出典 第32回全国中学生人権作文コンテスト入賞作品集)

1 本主題で人権教育を進めるにあたって

本主題は、内容項目1－(5)「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。」である。

中学生の時期は、自己理解が深まり、自分なりの在り方や生き方についての関心も高まってくる。一方で、自分の姿を他者との比較においてとらえ、その至らなさに思い悩むことも多い。そして、他者と同じように扱われることを嫌ったり、反対に他者と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になったりすることもある。こうした時期に自己を見つめさせ、個性を大切にしたい生き方を示すことは、人権教育を通じて育てたい資質・能力の価値的・態度的側面の「自己についての肯定的態度」を育てることにつながる。

本学習を通して、かけがえのない自己を肯定的にとらえさせたい。そして、自分自身のよさや個性を見いださせ、個性を伸ばして自分らしく生きていくことの大切さを伝えたい。

2 題材の目標

他者との関わりの中で自分自身のよさや個性を見だし、それを認め伸ばしていこうとする心情を高める。

3 人権教育を通じて育てたい資質・能力

あるがままの自分を認め、自分の個性を伸ばしていこうとする。(価値的・態度的側面)

4 指導のポイント

(1) 人権感覚を育てる上で大切にしたいポイント

- 本資料は、学習展開によって内容項目1－(5)「自分の個性を伸ばす」と内容項目2－(5)「相手の個性を尊重する」のどちらの内容としても扱うことができる。学級の実態に応じて補助発問や主発問を工夫する必要がある。
- 自分の個性を認め自分らしさを出すことが「自己中心」や「わがまま」とならないように、他者との関わりがあることを押さえて指導を行う。
- 道徳的価値の自覚を深めるため、自分が所属する集団の中で個性が発揮できているか振り返らせ、自己理解を図る。
- 自己肯定感を高めるためには、自分が学級で必要とされている存在であると実感できることが大切になる。班活動や係活動、話し合い活動や帰りの会等を通して、支持的風土のある学級となるよう、日常的な指導が必要である。
- 常に生徒の実態を把握して、指導したことが生徒の日常生活の中で実践行動として生かされるように努める必要がある。

(2) 人権が尊重される授業づくりの視点

①自己存在感

ペア学習や班活動を取り入れ、自分の考えを発表する場を設定する。
生徒の感想にはコメントを添えて教室背面に掲示する。

②共感的人間関係

話し合い活動では、お互いの考えや思いを尊重させながら活動を行わせる。
発表に対しては、拍手や頷き等の共感的態度で応えるように指導する。

③自己選択・決定

資料と出会い、級友と意見交換することで高まった道徳的心情を基に、これからの自分の生き方について考えさせる。

5 学習の流れ

(1) 指導計画

学習活動	人権尊重の視点を踏まえた指導上の留意点等
1 本時（道徳） 資料「リスペクトアザース」を読んで、あるがままの自分を認め、個性を伸ばすことの大切さを感じ、これからの自分の生き方を考える。	○道徳的価値についての理解ができていても行動できない（個性が出せない）自分がいることに気付かせ、その原因について自分なりの考えを持たせ、友だちの様々な考えや思いを知ることで道徳的価値自覚を深めさせる。 ○道徳的価値を自分のこととしてとらえ、その価値との関わりで深く自己を見つめ、かけがえのない、あるがままの自分を認め、自分らしく成長しようとする思いを持たせる。
2 事後（日常） 日常的な生活の場面において、本授業を思い出しながら、人間としての生き方についての自覚を深める。そこから、道徳的な行為や習慣へとつなげ、道徳的実践力を育む。	○多様な考えや道徳的心情が高まっている生徒の感想を、学級通信等で紹介する。 ○学校生活（係活動、委員会活動、部活動等）や学校行事で、自分らしく、自分の個性を生かした取組を行うことを促す。 ○帰りの会の中に、個人の努力や個性を認める場を設定する。


(2) 人権尊重の意識と実践力を養う学習活動例

目標

◇他者との関わりの中で自分自身のよさや個性を見だし、それを認め伸ばしていこうとする心情を高める。

人権教育で育てたい資質・能力

◆あるがままの自分を認め、自分の個性を伸ばしていこうとする。

主な学習活動	○指導上の工夫・留意点 評価◇◆	備考
1 集団の中で、自分の個性（自分らしさ）を出すことができているか確認する。	○主題に関する発問を基に、道徳的価値に対する自分や学級の現状を知り価値への意識化を図る。	
2 資料「リスペクトアザース」を読んで、感じたことを発表する。 3 アメリカ(サディエ)と日本の小学校では「何が違った」のか、「なぜ違ったのか」を考える。 <div data-bbox="193 1126 668 1565" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《何が違ったか》</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本では、みんなが他の人と同じようになるよう気を遣っている。 • 日本では、上手くできたことを周りに伝えたら「自慢だ」と言われた。 • 日本では、友達同士でひどい言葉で言い合っても「冗談」で済みます。 </div>	○資料は、同年代の中学生が書いた人権作文であることを伝える。 ○日本ではなかなか経験できない環境の違いが、行動や考え方の違いにつながっていることを感じさせる。 ○日本批判やアメリカ社会への誤解にならないように、作者が感じたこととして挙げさせる。 <div data-bbox="730 1155 1267 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《なぜ違ったのか》</p> <ul style="list-style-type: none"> • アメリカには様々な人種の人がいるから、周りとは違うのが当たり前だから。 • アメリカ社会は、最近までひどい人種差別をしてきたので、その反省があるから。 </div> <p>※人種差別は、未だに解決されていない重要な人権問題であることを確認すること。</p>	資料 ワーク シート <div data-bbox="1294 1088 1422 1151" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: 20px;">  </div> <p>は予想される生徒の反応</p>
4 資料を通して、自分はどうかあるべきか、どんな生き方をすればよいのかを考える。 <div data-bbox="225 1794 1267 1883" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【補助発問】「僕」が思うような「素晴らしい社会」にするためには、どうすればよいだろうか。</p> </div> <div data-bbox="193 1906 668 2040" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> • 相手のことを尊重すればよい。 • お互いを認め合えばよい。 </div>	○自分と他人との関わり、自分自身の生き方の、2つの視点から考えさせる。 ○まずは相手の立場を認め、お互いの個性を尊重するという意見を扱う。	

【主発問】 さらに「素晴らしい社会」にするためには、自分はどんな生き方をすればよいだろうか。

- 自分の個性を大切にする。
- 自分の個性を伸ばし、自分らしく生きていく。
- 自分の個性を生かしていく。
- 自分らしさ（個性）を出すことを恥ずかしいと思わない。
- 自分の個性は周りに認めてもらえないのでは…という弱い心を持たず、自分らしさを発揮する。

- 自分の個性を伸ばし、生かしていくことで、集団に良い影響を与えていくことを理解させる。
 - 道徳的価値の理解ができても行動できない（個性を出せない）自分がいることに気付かせ、その原因を考えさせる。
 - 自分の生活の場面での関係性をしっかり見つめさせ、深める。
 - 発表をさせる際は、内容や本人の意思を確認し、意図的に指名する。
- ◇集団の中で、自分の個性を伸ばしていくことが大切であると書いている。

意見交換

5 今までの自分を振り返り、これからの生き方を考える。

- 自分の姿を振り返り、これからの自分の生き方を考え、感想を書く。
- ◆自分の個性を大切にしながら生きていこうという気持ちを書いている。

「リスペクト アザース」

神奈川県 鎌倉市立御成中学校 3年
坪井 洸 (つばい こう)

僕は、日本人の両親を持ちながら、アメリカのサンディエゴで生まれて、十歳半まで生活し、地元のデイケア（保育園）、プレスクール（幼稚園）、小学校に通った。その中で出会った先生たちが何度も口にした『respect others（リスペクト アザース）』という言葉は、今も僕の行動や考え方に大きな影響を与えている。

サンディエゴは、ロサンゼルス以南にあり、メキシコの国境から一時間程度だったので、土地柄のせいも、クラスには、肌の色も髪の毛の色も本当にいろいろな人種の人たちがいた。僕が物心ついたときには、周囲にいろいろな人種の人たちがいるのが当たり前の状況だったので、自分がまわりの人と違っていることも当然だと思っていたし、それに対して深く考えることもなかったように思う。どこの国でも同じだと思うが、集団生活が始まると、誰かが意地悪をしたとか、誰かが誰かにいじめられたとか、いわゆる人間関係のトラブルが起こってくる。そんなとき、先生たちは必ず『リスペクト アザース』と言い、当事者に反省を促した。『リスペクト』の意味もはっきりわからない保育園や幼稚園の頃から、ことあるごとに繰り返し叩き込まれた。日本語にすると、「他の人のことを尊重しなさい」というような意味なのだが、今思うと「意地悪しないで、みんな仲良くしなさい」とか、「いじめはダメ」というそのときの行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題にしていることになる。

また、この言葉は僕が入っていたリトルリーグの監督やコーチもよく使っていた。選抜テストがない地元のリトルリーグでは、上手い選手と上手くない選手が混合して十二人でチームとして試合に臨まなくてはいけなかった。上手くない選手がフライをポロリと捕りそこなったとき、チーム全体が「おい、この下手くそ」と怒鳴りたくなる場面で、監督やコーチは『リスペクト アザース』と言った。やる気がなくてエラーをするのはもってのほかであるが、やる気があっても上手くできない選手はいるのである。この場合は、そこをわかってやれという意味だと思っている。実際、当時初心者だった僕は、この言葉を聞いて救われる気持ちになり、もっと上手くなるようにうんと頑張り、シーズン最後にはチームに少しは貢献できるようになった。

その後、僕は日本の小学校に通い始めた。周囲のみんなのおかげで生活にはすぐに慣れたが、同時に大きなカルチャーショックも受けた。一番驚いたことは、みんなが他の人と大きく違わないように、なるべく同じようになるように非常に

気を遣っているように見えたことである。他人よりうまくいかないから目立たないようにしているのではなく、他人よりうまくできても目立たないようにしているように感じた。僕は最初のうち、そのノリがわからず今までどおり、自分が上手く出来たことを周りの人にも伝えていたら、「それは自慢だ」と言われて、なんとも悲しい気持ちになった。また、友達同士で相手の気持ちになれば絶対言えないような侮辱するようなひどい言葉を言い合っている、『冗談』と言ってうやむやにしていることにも驚いた。僕がよくわからない世界だった。僕が叩き込まれていた『リスペクト アザース』の世界はここにはなかった。

僕の限られた経験の話になるが、アメリカ（サンディエゴ）ではなぜそんなに『リスペクト アザース』を子どもの頃から叩きこんでいるのだろうか。

それは、アメリカ社会がつい最近までひどい人種差別などを行ってきたことの反省からかもしれない。居住地区を制限したり、公園やバスなどの公共の場でも座る場所をわけていたり、差別することが当たり前で、一般人が差別したりされたりすることに何の疑問を持たずに時代が流れていた過去がある。そんな過ちをこれから先に繰り返さないように、子ども達に叩き込んだり、またそうすることによって、大人も自分自身を戒めているのかもしれない。

僕は日本でももっと、『リスペクト アザース』が浸透していけばいいと思う。日本は表面上差別のない社会なので、必要ないと思われるかもしれない。しかし、これこそが人権を考える上での基本だと思う。人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方によるからだ。同じ人間は一人もいない。人と違っていることがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。